【研修参加学生の報告書から】進取の精神海外研修 in ベトナム

・ベトナムでの研修を通じて学んだことの１つ目は、日本が過去に大きく発展するにあたり多くの国や人々に支えられてきたということだ。現在の日本は発展し、他国の支援を受けていると言うよりは他国を支えている国であるように感じる。ここまで発展するのに他国の支援を受けていた事実に気づくことができたのは、海外に足を運び、日本を客観的に見ることができたからだと思う。２つ目は、日本では当たり前になっていることがベトナムでは当たり前ではないということである。道路が車やバイクで埋め尽くされ、ほとんど隙間がない状態で日本では考えられないほど頻繁にクラクションが鳴り響いていた。それぞれの国の文化を受け入れ、その土地に適応する力が身についたように感じた。３つ目は、食文化の違いである。約一週間の滞在期間中、多くのベトナム料理を食べたがどの料理もとてもおいしく、日本人好みの味付けだった。ベトナムでの研修を通して、多くの人と出会い、多くの文化に触れることができた。ベトナムの人々は、日本人に対してとても友好的で、親切だった。 （教育･１年）

・ベトナムでの研修を通して私が学んだことの１つ目は、発展途上国の現状と、その発展速度の速さである。JICA ベトナム局にてお話を伺う中で他国からの協力、特に日本からの支援は大きな力となっていること、日本もかつては支援を受ける側であったことを学んだ。２つ目は、国同士は私が思っていたよりも互いに手を取り合っているということである。農村見学で革靴を１つ１つ手作業で作る様子や京セラ工場で働く現地の人々を見て、前述したような高速道路の建設など一方的な支援だけではなく、発展途上国といえども、そこには日本では得られないような農産物、製品、労働力など価値のあるものが多く存在しており、それぞれの国にはないものを補い合っていることを実感した。だからこそ国同士の尊重と文化の相互理解が不可欠であると感じた。 （教育･１年）

・今回のベトナム研修を通じて、「利他の心」を学ぶことができた。利他の心は自分の利益を中心とするのではなく、他人への思いやりを大切にするものだ。今回の研修で出会ったベトナム人、ベトナム在住の人たちは、利他の心を持っている人ばかりだった。ベトナム人は助け合いの精神が刻まれていると感じた。近年では日本企業によるベトナム支援のように、 ビジネスの中でお互いに協働して新たな価値を創りあげていき、しかもお互いの理念が共通しているため、その関係性が持続するようなものが多い。一般的な企業によく見られる自分たちの私的な利益だけを求めるのではなく、ベトナム国民に恩恵を与えるような、まさしく利他のために働く人々がベトナムには多くいた。ベトナムは一番の親日国と言われているが、それは日本の先祖の方々がベトナムに良い影響を与えてくれたおかげである。だから、現在のベトナムと日本の関係を築いてくれた先祖の方々にも感謝の気持ちを忘れないようにしたい。 （法文・3 年）

・ベトナム研修を通して感じたことの一つに、ベトナム人の手先の器用さ、細やかさがある。ベトナム定番のお土産に刺繍があることからもそれはわかるし、ヴァントゥ村の中学校で折り紙を教えた際も感じさせられた。私はベトナムの「外文化」というものにも驚いた。ベトナムは暑い。日本の夏と同じくらい、もしくはそれ以上暑いというのに、皆プラスチック製の椅子を外に並べて食事をとったり、過ごしていたりしている。暑かったが、そのおかげで家族が一緒に食事をとっているだんらんの様子などが見られて、とても温かい気持ちになった。また、フランス統治時代の面影が色濃く残っているのもベトナムの特徴の一つである。まず美しい街並みにその様子は見て取ることができる。「稲盛アカデミー事務所設立 10 周年記念式典シンポジウム」では、稲盛哲学に影響を 受けた人々の話を聞き、稲盛和夫さんの精神が今ベトナムで響いているということに驚いた。「善を尽くせば必ず良い結果が返って来る」、「利益追求だけでは社員は離れていく」、「利己心を捨てて他の為に社会貢献が大切である」など成長を遂げているベトナムだからこそ、響く哲学がそこにはあった。
（法文･2 年）

・農村に住む人々や、少数民族の生活、日系工場で働く人々など多くのベトナム人の生活に触れる機会があった。日本と異なり、農村では子供たちも学校に通いながら、農業を手伝っていたことや、工場で働く人も女性の割合が多く、平均年齢が 26 歳と若い人が活発に働いている状況が見られた。研修中は日本語を勉強しているベトナム人の学生と共に行動した。同い年でも自分のやりたいことをはっきりと持っており、将来を見据えた勉強をしている学生が多いと感じた。ベトナムの学生の勉学に対する姿勢を受けて、私自身がこれからどのようになりたいかを考えるきっかけとなった。日本とベトナムの関係に長年にわたって貢献してきた人がいるということを知り、日本とベトナムの関係が続いている理由を知ることができた。個人やグループでのつながりが国同士のつながりにも影響を与えていることもあるのだと思った。稲盛アカデミーの事務所設立 10 周年記念式典に参加し、稲森和夫さんの進取の精神がどのように引き継がれているのかを知ることができた。また、稲盛経営哲学がベトナムの発展を支えているということが分かった。今回の研修を通じて、異文化に

触れ、日本と他国の関係にもっと興味を持つことができた。今回の研修を生かして、自分自身が今後できることを考えていきたい。（法文・1年）

・ベトナムの学生と話をしていると自分の将来に対して明確なヴィジョンを持っていることが分かった。自分の将来やりたいことに対して一生懸命に行動することが出来ている印象だった。一人の学生が、ハノイのこの交通量の中で生きていると何も怖くなくなり、どんなことでもチャレンジ出来ると冗談混じりに教えてくれた。現地の学生たちとの交流は私たちに大きな刺激を与えてくれた出来事の一つだ。見学した高速道路の工事現場では日本人の指導のもと日本人とベトナム人がお互いに協力し合って仕事を進めていた。どちらも国籍の垣根をこえて高速道路を作るという１つの目的のために尽力していた。小さな人間があんなにも大きな高速道路を作ることや国籍の違う者同士のつながりに感動した。今回の研修で、日本では味わえないその国独自の空気を肌で感じ、日本では体験できないことも多く体験することが出来た。今回得ることの出来たこの体験は今後の人生において大切なものになるはずだと実感している。私の得ることが出来たこの体験をもっと多くの人たちにも体験して欲しいので、今回の研修の素晴らしさを多くの人たちに伝えていきたい。（法文･1年）

・私はこの研修で初めて海外を訪れた。人も雰囲気も匂いも全てが初めて見る知らないことばかりで毎日が新鮮だった。この研修を通して、人とのコミュニケーションの大切さと異文化に対する関心と深い理解、先進国が途上国に対して行う支援について学んだ。Van Tu 村の小中学校を訪問した際に歌で歓迎され、伝統工芸村の見学、少数民族の暮らしの見学をしましたが、どれも知らないものばかりだった。文化や伝統に直接触れ、体験して現地の人と同じくらい重んじ、敬意を払うことが異文化理解への鍵になると思いました。JICA の見学で、日本がベトナムに対して橋や道路、病院、発電所など様々なものを作り、支援していることを知った。一言に支援と言っても、ベトナムの自然環境を守りながら、労働者や関係者への保証までを一貫して行っているため、簡単なことではないと思った。ベトナムの人たちの生活の質を高めるために、ただ単にしてあげるのではなく、技術を教えることの大切さを学んだ。 国際協力においては、他国への興味関心と出来る国ができることをするという国同士の助け合いが大事なのだと思った。（農・2年）

・今回のベトナム研修を通じてグローバルな視点を得ることができる多くの体験を行うことができた。JICA の事務所を訪問し、JICA の方から直接お話を伺い、発展途上国への経済支援について考えさせられた。JICA でお話を伺い、日本も戦後世界中の国々の支援のおかげで復興することができたことや経済支援をすることで両国の関係が良好になるというメリットがあることがわかった。また、日本の支援で建てられた道路や橋はベトナムの人たちの生活でなくてはならない存在になっており、感謝されていると感じた。在ベトナム日本国大使館を訪問し、大使からベトナムについてのことやベトナムと日本の関係について詳しくお話を伺うことができた。ベトナムは世界有数の親日国であるということ、ベトナムでは女性の社会進出が進んでいるということを伺った。日本もベトナムのように託児所や育児所を増やし、女性が働きやすい社会になってほしいと感じた。もともと海外で働く仕事に興味があったけれども、よりいっそう興味や関心が湧いた。海外で活躍する人はやっぱりかっこいいと感じた。また、ベトナムへ行き、このような仕事があるのだな、こういった風に日本とベトナムが関わっているのだなと感じる部分が多くあり、自分自身の視野も広がったように思う。（教育・2年）

▼日本大使公邸での記念写真

▼ベトナム人学生との交流会